

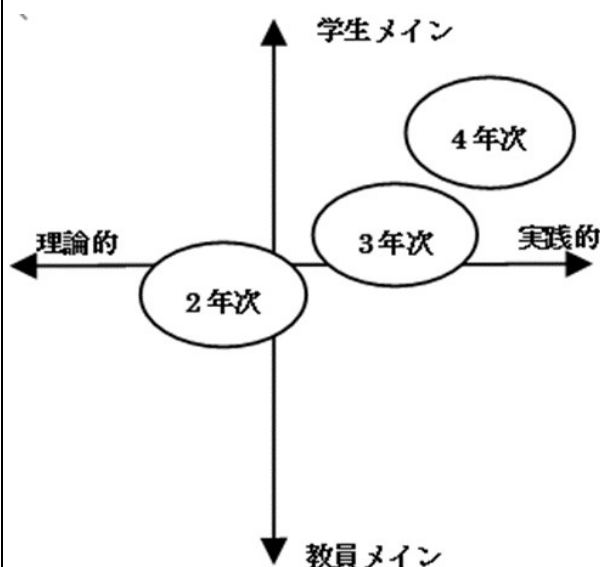
教員名	王 雪 (オウ セツ) WANG XUE	所属学科	国際学科
-----	-------------------------	------	------

【ゼミでは何を学ぶのか】

ゼミでは、グローバルな視点を持って、「国際ビジネス」を考えるための作法を身に付けることを学びます。

具体的には、国際経営やイノベーションなどに関する、各学生自分の興味・関心や卒業後の目標などに合わせ、自分が与えられた課題や自らが選んだテーマについて調査・研究をしたうえで、グループの前で発表し、質疑応答や議論が行われます。こうして養われる仮説構築、資料収集、仮説検証、レポート作成、プレゼンテーションを行う能力は、社会に出ても非常に役立つものです。

【どのように学ぶのか】



図：ゼミ年次イメージ

**2年次：**国内外企業のケーススタディを反転授業方式で輪読し、突っ込んだ質疑応答と活発なディスカッションを通して、現場に対する疑似臨場感を味わいながら、企業のグローバル・マネジメントにおける問題の発見・分析とソリューション策定のプロセスを学びます。「チームに分かれて特定のグローバル企業を調べ、問題を発見する」→「お互いに発表する」→「質問を集約して企業に投げかける(仮説を立てる)」→「工場見学、企業訪問で仮説を検証する」→「リサーチペーパー

を作成する」このような流れで行います。お互いに発表することでプレゼンテーション力を、企業に訪問することで社会人のマナーを養っていくことも狙っています。この段階になるとゼミ生は本格的にグローバル・マネジメントに興味を持つようになります。論文を執筆するときに必要な経営学的分析ツールを身につけます。

夏休みの海外あるいは国内合宿では、合同ゼミを行います。合宿では、様々な社会的課題をビジネスの力を活用し、PBL(Project Based Learning)を行います。他大学の学生と切磋琢磨しながら、彼らの意欲的な姿勢に触れることで自分たちが活動する上での意識を高めます。そのほかに、私を含めゼミ生ひとりひとりが考え方や視野を広げて、①社会で通じるコミュニケーション能力の向上、②就職しやすい自分創り、③生涯の友人作り・人脈構築を目的としています。

**3 年次：**本格的に論文執筆がスタートします。各自がそれぞれのテーマを決め、一年間かけて書き上げます。テーマは、国際経営、ローカル・イノベーションやグローバル・イノベーションに関する各自が興味のあることを設定します。テーマを設定した後は、そのテーマが過去にどのように扱われてきたか、文献資料として何を押さえておくべきか、どのようなデータの収集が必要なのか、如何なる分析の枠組みを構築すべきか、毎週進捗状況を報告し細かく指導を受けながら作業を進めていきます。また、その本質は何かなど各自で問いを深め、テーマについてどんどん知識を増やしていきます。そして、自分たちなりの仮説を立て、インタビューや定量分析し、そして様々な分析手法をはじめ、立証するのが一連の流れです。

**4 年次：**2、3年で得られた論文執筆のスキルを活かして、主に卒業論文を仕上げます。

また、4年生が入ったら、必ず一つ上の先輩がついて、2、3年生に図書館の使い方、資料の調べ方、データ収集や分析の仕方、現地調査の作法、発表の準備、論文の書き方などを指導しています。知の蓄積というか伝承になり、教える立場に立つ、もっといい考え方や発表ができるようになっていきます。併せてゼミの指導教員のサポートとゼミのOB・OGの現場の声を受けながら修飾を行います。

#### 【学んだことはどのように生かせるのか】

勉強は、大学で終わるわけではないです。特にこれからは、生涯を通して「資格試験」や「国家試験」、「採用試験」などのためにも、様々な勉強をし続けなくてはならない時代になります。だから重きを置いているのは、「学び方」をどう学ばせるかということです。自分で学べる人になってほしいのです。そうした力は、世の中に出て戦っていくときの道具としても、必ず役に立ちます。

そして、「学び方」の中、欠かせないのは「学問」です。試験といった答えありきの問題を「解く」のではなく、自分の「問題意識」に沿って「真理」といえるだけ研ぎ澄ました「探求」を成し遂げたことは「学問」です。卒論にしてもそうです。別に学者になるわけでもないのに、何のために卒論を書くのかという自ら課題を立て、仮説を立て、根拠づけて検証していくという3つの要素は、実は仕事のプロセスと同じだからです。

さらに、多様性が求められる時代では、「学問」を持って、複数の分野に対する知見を養い、既存の知識を横目に見つつ、自分なりにもう一度知識を築いていく必要があります。しっかりとした深い知識と幅広い分野で活躍していける広い視野を持ち合わせた「T型人才」になりましょう。

#### 【おすすめの入門書・基本テキスト】

1. 『論語と算盤』 渋沢 栄一（著） KADOKAWA
2. 『新しい経営学』 三谷 宏治（著） ディスカヴァー・トゥエンティワン
3. 『FACTFULNESS』 ハンス・ロスリング（著）、オーラ・ロスリング（著） 日経BP

### 【まだ見ぬ君へのメッセージ】

千里の道も一歩から。

これはもともと、古代中国の思想書である「老子」の言葉が由来でありそうです、原文は「千里之行始于足下」です。似たような意味のことわざに「ローマは1日にしてならず」、「塵も積もれば山となる」、「雨だれ石を穿つ」ともありますが、やはりコツコツと継続していくことが重要ですよね。

ある意味で、結果ではなく原因にフォーカスをするということは、物事をシンプルに考えることと言い換えられることができそうですね。

例えば、ネイティブな英会話を習得したい場合：

(英語表現を覚えて) 話せばいいでしょう！ ネイティブスピーカーと話せば！

○○資格を取得したい場合：

(○○問題集を) 解けばいいでしょう！ 解けば！

グローバル人材になりたい場合：

(多様な文化持っている) 人とコミュニケーションすればいいでしょうか！やれば！

大学の4年間は、あっという間です。この4年間にできることは、その人の努力次第で決まります。ですから、どんな努力経験をしたとしても、その経験自体がマイナスになることはありません。そこで、1度やったミスを繰り返してだけではなく、どんなに小さな経験でも「何のためにやっているのか」「どうすればよりよくなるのか」を考えるはずです。つまり、小さいことを積み重ねるためには、自分で小さいこと＝日々の経験に意味を与えて学びに変える必要があるのです。

最終目標の達成ため、一歩ずつ進める以外に成し遂げる方法はない。小さい一歩でよい、今日踏み出そう。